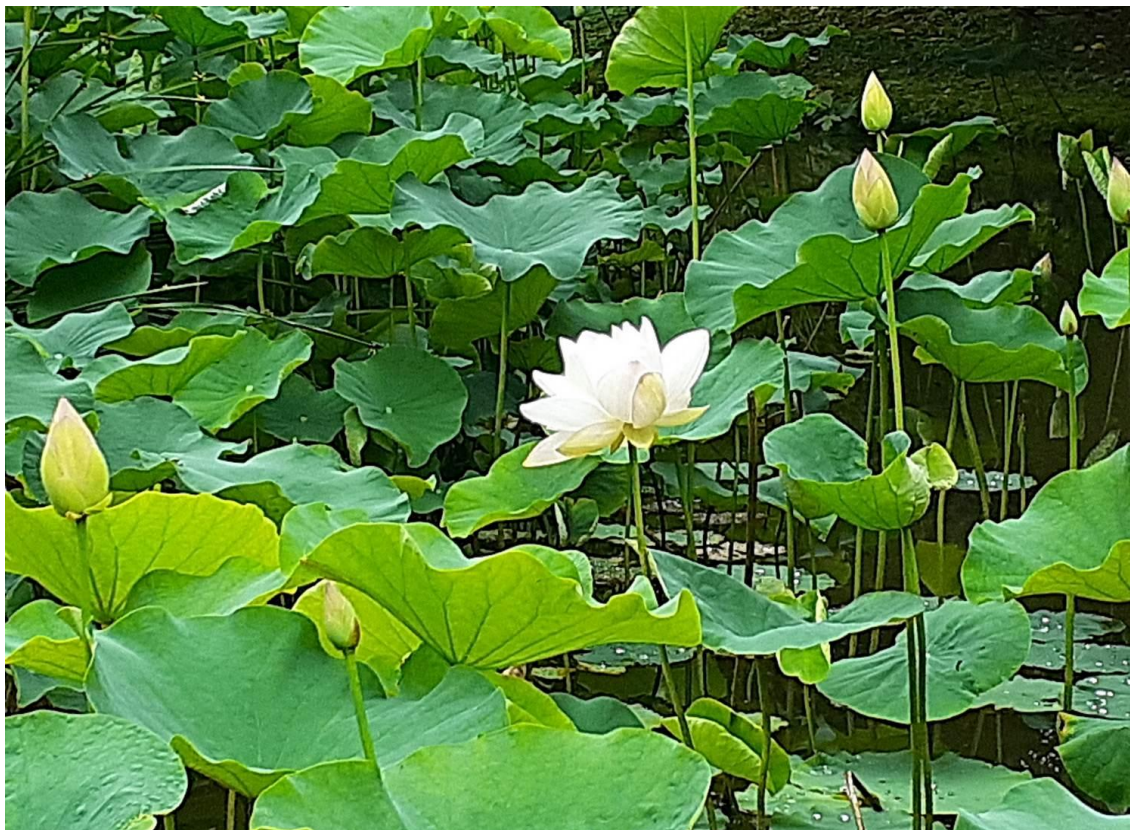


2021年7月1日 (木)

<https://www.leeslee.com/20210702essaisLYK>





2021年7月2日(金) 雨

梅雨まさかりの空模様。昨日も降ったりやんだり。今日もそんな一日のよう。そして明日あさっては近畿でも大雨？ さて梅雨明けはいつか。

ー 感じ、考えたことを伝える ー

初めてホームページを開設したのは1997年、この間にブログがいつとき盛んになり、その後はSNSが一般化、当所も「note」ならいいかしらとチェックしましたが、どうも“ちょっと、違うなあ…”の感いなめず、単独のWebサイトのみのままで現在に至っています。

偶然でもこのLEE'Sのサイトにヒットするのはほとんどないでしょうし、閲覧いただいているのも、すでに知り合った人の、たぶん2割程度の方ではないかと思えます。ただし、そういうことはあまり考えずに発信して

ですから、いつか仕事で一度しか会っていない方から、『ホームページ拝見しています』とメールが届いた時にはびっくりしました。自分の想像していないところで、このサイトが生きている、そんな感じがして。

ー昨日、『「今日のessais」を毎日たのしみにしている人がいるんですよ』と知人が教えてくれました。第一線を退き、少し力を落としているように見えた旧知の男性に、試しにこのサイトの音声メニューを伝えた

「今日のessais」では今朝のお天気を話します。すると、北陸に住むかの男性は、“うん、こちらも…”と、ココロの中で会話しているらしい。そんな光景が目浮かびます。

このことをよくぞ教えてくれました。自分の知らないところで、誰かの日常を少し豊かなものになっている。そう思うと、なんともこちらも豊かな気持ちになります。感じ、考えたことを伝える、それだけなのに…。

でも誰でも、そこに意味がありますね。自身が真に感じたこと、考えたこと、それはかけがえのないもの。今日のessaisでも話しましたが、久しぶりに会った友人2人とのそれぞれの〈道〉についての語らいに、豊かな一日を感じられたのですから。

2021年7月5日(月) 曇→雨?

今朝は曇り空、予報ではこれから雨の大阪。でも日が差してきた。この時期、天気は局地的。熱海の土石流にの映像には言葉を失う。梅雨明けの時期はどうやら例年どおりのよう。

ー お世話になる図書館 ー

事務所移転を機にモノの大処分をしました。昨年末から今年春にかけて、本、事務機器・備品、家電、衣類を、順次業者や市のセンターに依頼して、予定していた全てを片付け終えました。

あとはあるものをうまく使う、本は図書館で借りる。もともとベストセラーな本はあまり読まないの、予約してすぐに、「ご用意できました」の通知、ありがたいことです。

ある知人は、「引越す時の条件は近くに図書館があること」と言っていました。なるほど、書齋代わりというわけですね。そんな風に思ったことはありませんが、図書館には本当にお世話になっています。

図書館を本格的に利用するようになったのは、独立してから。西長堀の大阪市立中央図書館では仕事に関連する思いがけない本に出会ったし、箕面に住んでいた時には、桜ヶ丘図書館では未来を拓く知に出会うことができた。1995年から1998年のことです。

自分では当時手に入れられなかった大文献を国立国会図書館で一冊をこの目で見られたのは本当にうれしかったし、中之島図書館では国会図書館の蔵書を送ってもらって閲覧もできた。

ここ最近では、新聞で若い詩人が紹介していた『思索の淵にて～詩と哲学のデュオ』に目がとまり、中之島図書館に予約し、すぐに借りられて、読みました。

ちょっと気になったら、図書館の蔵書検索してみると、こんな本があるのか…と新しい発見もある。ちなみに、国立国会図書館の関西館が「けいはんな」にあります。

大阪からだとは交通は不便ですが、近くに用事があった時に寄ったことがあります。一般の来館者は少ないからか、入館すると、職員の人たちがすごく親切で丁寧。館内は広いし、蔵書はかなりだし、一度いってみる価値あります。

2021年7月7日(水) 小暑 雨

大阪市内は今朝6時前ぐらいから雨、島根には「線状降水帯」発生 of 速報。梅雨も末期か。

— 情報と知へのアプローチ —

今日のessaisでも話しましたが、今朝の新聞コラムを読んで、〈また見聞き〉ではダメだ、わからないものだと、あらためて感じました。それは最近の体験的気づきに通じるものです。

月曜に書いたとおり、最近によく図書館で本を借りています。借りやすいので、ちょっと気になったことがあれば、すぐに検索し、数冊予約して、ざっとかいつまんで見るだけになる

年初から何度かそういうことを繰り返すうちに、気づきました。あまり自分の中に残っていない、知性、感性に働きかけられていない。断片的、点的な情報・知の接触ではダメだ、やっぱり、とね。

そういえば、名言集のような書籍は、資料や参考図書にはなっても、それ以上にはなりにくい。もしあっと感じる名言があれば、その本人の物語や論にアプローチしなければ、真髄には触れない。

線的、面的、4次元的にアプローチすること。それなりの時間と労力をかけて自分の糧になる。早道はない、『急がば回れ』ですね。

2021年7月11日(日) 晴れ

昨日の朝、蝉の声を聞いた。この夏はじめて。雨はふらず、予報より早く梅雨明け基調。今日も朝からよく晴れている。風があり、少しカラッとして、夏の高原にいるよう。よい日曜。

－ 夏に旅、心の旅日記 －

昨日から何となくノスタルジック、たぶんこの時期の若い頃の気持ちが甦っているのではないかと思います。

身体が憶えている、そういうことではないでしょうか。空、風、陽ざし、蝉、視覚、聴覚、嗅覚、触覚が複雑に絡み合っ、過去の記憶を呼び覚

十代の頃は『宵々山コンサート』。朝はやくから円山公園に並び夕方からのコンサートまでまる一日すごしたものです。何年か通ったある年のことで妙に印象にのこっている場面。

それは、終演になっても帰りたがらない聴衆に、「きたやまおさむ」が精神科医を学ぶ人らしく、きっぱりと、これもほんの束の間ですと言って、みんなを我にかえらせた。ハッとなって皆が席を足し始めたのでし

初めて「青春18きっぷ」を使い、信濃の『木崎夏期大学』に行ったのは2002年7月の終わりでした。先日ふと思い立ち、ホームページをチェックしたら、去年は初めて中止したそう。戦争中も続けた歴史ある夏の学びの場、今年で104回。

毎年書いていますが、夏は思い出のできる季節。「コロナ」で実際の旅はなかなかむずかしくなっていますが、そういえば、「きたやまおさむ」は『ぼく自身のノート』で、心の旅を勧めていました、心の旅日記。

『「僕」が感じる情緒という糸と、それについて考えるための言葉の糸とを織り込み、二つが出会ったり交流したり別れたりするところを「僕」が生きて報告することで、間柄や人柄、そして人生物語が紡ぎ出されるという旅なのだ』。

2021年7月12日（月）

歴史博物館の特別展を観て、下の階へ降りる途中、外の風景



2021年7月12日（月）

夕陽のなごりの西空に三日月と金星



2021年7月14日（水）曇⇄晴

朝一番は雲が多かった。蝉は鳴こうか鳴くまいか、声を出しかけて止んだ。今日は不安定なお天気のように。7月中旬、今年も祇園祭のことは

－ 時間 －

短期・長期の時間管理用のフォームを色々作ってあります。先週2023年のカレンダーを作りました。三か年分をいつも一覧できるようにしているので、2020年が終わった後そのままになっていたのです。

どのフォームもそうですが、すべて自分仕様になっています。A41枚に1年、横長につなげて、近未来の大まかな「計」を図るのです。ちなみに2023年は旧暦では閏2月あり、新暦の3月22日から4月19日。

月も3ヶ月を一覧できるようにしています。今なら7月から9月までが横長につながっています。9月予定の仕事の準備を8月末のどの時期にするか、鉛筆で軽く書いておき、時間感覚をつけておきます。

これがけっこう大事。つついのんびり構えて、気がつけば本番ぎりぎりで慌てた、なんてありがち。あれと、これと、やらないないと…と頭入れておくと、体の方でタイミングを逃がさず段取りをつけるようになります。

そういう風にこれでもかというほど工夫しても、時間というのはおそろしい。えっ、もう今年も後半?!ということになる。年を重ねれば、尚更です。

2021年7月18日(日) 晴

夏が来た。昨日梅雨が明けた。風はなぜか涼しく、開けはなした窓から青い空にうすい雲が横に広く流れ、カーテンをゆらす夏風に、“ああ、いい日…”。明日は平日、オリンピックとうとう開幕。

－ 大阪市内立図書館 －

先週、たぶん20年以上ぶりかで大阪市内立中央図書館に古い本の閲覧に行きました。いつか新聞でこの図書館が全国で一番貸出が多い図書館とか。広々としていて、南船場に事務所がある頃はよく利用した

府立の図書館にないものが市立図書館にあったので、登録もして、これから利用させてもらうことにしました。チェックしたかった本は1993年発行のものです。ビジネス関連書ですが、「書庫資料」扱いになっていたのは、やはりもう〈過去〉のテーマだったからでしょうか。

本当に勉強をするようになるのは社会に出てからとありますが、個人的にはやはり独立してから自然に勉強するようになりました。これまでも時々書きますが、特に事務所を開設して最初の3年が珠玉の〈まなびワールド〉でした。心身ともに研ぎ澄まされていたように感じます。

その時期に手にした本の数冊の一つが先の「書庫資料」になっていた一冊。今あらためて開いてみると、それほどピンときません。この20数年の間に知性と感性が磨かれたということでしょう。そうでなければまた意味もありませんが。

ところでこの大阪市内立図書館、音楽のライブラリーもあって、PC限定ですが、すごい数の曲アルバムが視聴できるんですね。さっそくドボルザークのチェロ協奏曲などを聴いて、快適に仕事しておりました。音はあまりよくありませんが、なかなかgoodです。

2021年7月21日(水) 晴

今日も夏の青空、日の出すぐの朝陽が室内をガラガラと朱く染め、“今日も暑くなりそう…”。明日は大暑。

－ 許していいこと、いけないこと －

「今日のessais」でも話しましたが、人間の尊厳を冒すようなことは許してはいけない。少々の悪口は別にどうってことはありません、十人十色、互いに好き嫌いがありますから。

尊厳、尊くおごそかなこと。人間の尊厳、人間一人ひとりの精神と身体そのものが尊くおごそかであること。それを冒すことは冒瀆。それだけで罪なのに、抗することのできない人に冒瀆を続けるとしたら、それは「人間」でしょうか。

仕事仲間から総スカンをくらったことが一度あります。会社員時代のことです。もうはるか昔。夏の海水浴に女子5、6人で一泊二日の旅行に出かけた時のことです。



夜の酒宴で一人が告白を始めた。付き合っている相手の子供ができた。でも相手には家庭があり、離婚する気はないらしい。だからシングルマザーになる。

聞き終わって、皆しーん。口火を切ったのはわたしです。いくつか確認し、自分の考えを言った。他の人たちは何も言わない、尋ねない。とにかく二人のやりとり。しばらくして本人が涙を流し始めた。なだめつつ、本当にその決断でいいのか、もう一度考えるよう勧めたりしたのです。

総スカンは翌日からです。夕方までの旅の残り時間、告白した本人以外の人たちが無視をし始めた。告白した本人はむしろ親身に考えてくれたと感じたのかもしれませんが。

他の人たちの無視は職場に戻っても続いた。呆気にとられました。そして、思わず笑えました。そんなことをして、堪えるとも思っている？ それは、ない、ない。

まったく何ともありません。やれるものならやってみなさい、という気持ちでした。いつもと変わらず仕事して、無視を続けるならそれもけっこう、こちらは知らん顔です。

そのうち彼女たちの方が何かを感じ、考え始めた。2週間ぐらい経って、徐々に近づいてきた。それを拒否するようなことはしません。普通に接して、しだいに元のさや。

それなら最初からつまらないことはやめればいいのに、そう思ったものですが、やることもかわいいものでした。ちょっと魔が差した、という程度で、根っから悪い人たちではありません。

大半はそうだと思いますが、今回のミュージシャンはどうでしょうか。

2021年7月22日（木）

### 鶴身印刷所

一年延期された東京オリンピックのため、祝祭日が移動。22日（木）から4連休。「まん延防止措置」下であり、特に予定はありません。この機会に、昨年の「プロ講師になろう塾」最終のプレゼンにコメンテーターとしてご協力いただいた「鶴身印刷所」へ。サントリー、ニッカの見慣れたラベルがこの「鶴身印刷所」さんの製作だったとは…。すごく落ち着く建物で、ここでお茶でも飲みながら本を読めるといいなあと思いました。すると、そんな場にする予定とか。たのしみです。





2021年7月23日(金) 晴

昨日は大暑、連日おそろしいほどの暑さ。それでも風があるからまだマシ。東京オリンピック、今夜開幕式。これほど盛り上がり欠ける祭典になろうとは。

— 『類は友を呼ぶ』 —

ことわざは先人・先達の知恵を後世に伝えやすくしたものだと思います。社会生活が長くなるにつれ、ことわざは本当によく言ったものだなあと感じます。

30年自分で仕事をやってきて、最初にそれを感じたのは、『類は友を呼ぶ』。新しい人たちを出会い、今も続く人もいれば、早々に絶えた人も

よくもわるくも、人間、自分を超越することはできない。人を含め、すべての関係、自分をとりまく世界は、自分を映す鏡でしょうね。自分の〈程度〉に応じて、自然に『類は友を呼ぶ』ようになる。

辞任、解任がつづいた今回のオリンピックの裏舞台にも、この『類は友を呼ぶ』をみてとるのですが、どうでしょう。

ともあれ、大きなトラブル、事故なく、終わりますように。

2021年7月24日(土) 晴

今日も朝から強い陽射し。でも窓から入る風はひんやり感じるほど。今年の高気圧は北東からはりだしている、そのせいかしら。日中は危険な暑さ。陽が傾くのを待って、今日も外へでよう。

— 「川を流れる水はつねに新しい」 —

「真夏の酷暑の時にこそ、難解な哲学書を読む」、と言った知人がいます。この時期になるといつも思い出します。

哲学書とまではいきませんが、月曜には返却しないといけないので、『魂のみなもとへー詩と哲学のチュオ』（谷川俊太郎 長谷川宏）の残りを朝の涼しいうちに読みました。

若い頃にいろんな詩人のものを少しつまみ読みしましたが、「谷川俊太郎」は手にしたことはなかった。

うんと大人になって、CMで使われた『朝のリレー』に感服して、その後ずいぶんのちに公開された映画、『谷川さん、詩をひとつ作ってください』にはいったものです。

『川』。「母さん 川はどうして笑っているの 太陽が川をくすぐるからよ」に始まり、「母さん、川はどうして休まないの それはね海の母さんが川の帰りを待っているのよ」で終わる『川』。

『朝のリレー』の時に感じたものを、ふたたび感じた感じ。

一遍の詩ごとに添えられる「長谷川宏」の文。そこには、「川を流れる水はつねに新しい』。なんだかハッとしました。『朝のリレー』、『川』同様、こういう目線、感性はなかったなあ…。

全開の窓に目をやり、広がる真夏の青い空、はるか昔、若い頃の夏休みのある日と同じような空、でも新しい空。2021年7月24日、オリンピックが昨日始まった4連休3日目の夏の朝。